2016年6月10日

各 位

会社名　本田技研工業株式会社
代表者　取締役社長 八郷 隆弘
（コード:7267、東証第一部）
問合せ先　事業管理本部 経理部長
鈴木 雅文
（TEL. 03-3423-1111）

第92回定時株主総会招集のご通知添付書類の一部訂正について

2016年5月27日に当社ウェブサイトに掲載、5月30日に株主の皆様に送付しております当社「第92回定時株主総会招集のご通知」添付書類の事業報告の記載事項の一部に訂正すべき点がございましたので、お詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。

記

訂正箇所

訂正箇所は下線で表示しています。

１．20ページ　１．企業集団の現況に関する事項（１）事業の経過及び成果

【訂正前】

当年度の連結売上収益は、為替換算による売上収益の減少影響などはあったものの、四輪事業や金融サービス事業の売上収益の増加などにより、14兆6,011億円と前年度にくらべ9.6%の増収となりました。

【訂正後】

当年度の連結売上収益は、四輪事業や金融サービス事業の売上収益の増加などにより、14兆6,011億円と前年度にくらべ9.6%の増収となりました。

２．22ページ　１．企業集団の現況に関する事項（１）事業の経過及び成果 四輪事業

【訂正前】

四輪事業の外部顧客への売上収益は、為替換算による売上収益の減少影響などはあったものの、連結売上台数の増加などにより、10兆6,254億円と前年度にくらべ10.6%の増収となりました。営業利益は、台数変動及び構成差に伴う利益増やコストダウン効果などは

あったものの、品質関連費用を含む販売費及び一般管理費の増加や為替影響などにより、1,533 億円と前年度にくらべ 45.2%の減益となりました。

【訂正後】

四輪事業の外部顧客への売上収益は、連結売上台数の増加などにより、10 兆 6,254 億円と前年度にくらべ 10.6%の増収となりました。営業利益は、台数変動及び構成差に伴う利益増やコストダウン効果などはあったものの、品質関連費用を含む販売費及び一般管理費の増加や為替影響などにより、1,533 億円と前年度にくらべ 45.2%の減益となりました。

3．23 ページ　1．企業集団の現況に関する事項（1）事業の経過及び成果 金融サービス事業

【訂正前】

金融サービス事業の外部顧客への売上収益は、為替換算による売上収益の減少影響などはあったものの、オペレーティング・リース売上やリース車両売却売上の増加などにより、1 兆 8,356 億円と前年度にくらべ 18.0%の増収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の増加などにより、1,993 億円と前年度にくらべ 1.6%の減益となりました。

【訂正後】

金融サービス事業の外部顧客への売上収益は、オペレーティング・リース売上やリース車両売却売上の増加などにより、1 兆 8,356 億円と前年度にくらべ 18.0%の増収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の増加などにより、1,993 億円と前年度にくらべ 1.6%の減益となりました。

4．24 ページ　1．企業集団の現況に関する事項（1）事業の経過及び成果 汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業

【訂正前】

汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業※の外部顧客への売上収益は、為替換算による売上収益の減少影響などはあったものの、その他の事業の売上収益の増加などにより、3,347 億円と前年度にくらべ 3.8%の増収となりました。営業損失は、その他の事業に関する費用の増加などにより、311 億円と前年度にくらべ 272 億円の悪化となりました。

【訂正後】

汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業※の外部顧客への売上収益は、その他の事業の売上収益の増加などにより、3,347 億円と前年度にくらべ 3.8%の増収となりました。営業損失は、その他の事業に関する費用の増加などにより、311 億円と前年度にくらべ 272 億円の悪化となりました。

以上